

令和元年度大岡小学校 3年2組 クラスの学びを発信します！

目ざせ！風呂敷マスター！まちの人とニコニコ

O・T・O・M・O・D・A・C・H・I 大作戦

道徳の時間に、日本の伝統文化である風呂敷を知り、日本の伝統文化のよさを感じました。

「一枚の布なのに、魔法の布」という道徳読み物の言葉通り、なんでも包める楽しさを知った3年2組のみんなは、風呂敷のよさやおもしろさをもっと知りたいと思い、もう一度風呂敷をさわってみました。

すると、風呂敷は「包む」だけでなく、「遊ぶ」「つくる」「かぶる」「しく」と様々な使い方ができること、様々な柄があって見た目にもとてもきれいなこと、手触りもそれぞれに違うことなどを知ることができました。風呂敷は、たった一枚でいろいろなものになるすてきな布。もっと詳しくなりたい、自分だけの風呂敷を作りたい、という願いを膨らませました。そして、大岡の時間で風呂敷をテーマにしようということに決めたのです。

風呂敷に詳しい風呂敷マスターになりたいという願いに向けて、風呂敷でものを包んだり、遊んでみたり、たくさんつなげてみたり…風呂敷とかかわりを深める活動を、それぞれのしたいこと、探究してみたいことに合わせて行ってきました。多くの子が自分の風呂敷を持ち始めるなど、みんな、風呂敷のことが大好きになってきたようです。



風呂敷でどんなことができるようになったかを話し合っていると、クラスのTさんが新しい包み方を披露しました。とても上手なうえに、いろいろな結び方を知っているので、クラスみんなが「Tさんは一番マスターに近い。」と考えました。そこで、「どうしてTさんはこんなことができるのだろう。」と考えました。「たくさん調べているからじゃないかな。」「どんどん新しい結び方に挑戦しているからかな。」と話し合う中で、Tさんは「毎日出かけるときに使っているよ。本で調べてやってみて、もう一度見ないで結んでみて、その包み方でお出かしてる。」と言いました。みんなもTさんみたいにやってみようということになりました。しかし、そうは言っても、本で調べても実際のやり方がよくわからず、難しいという子もいます。

「もっと風呂敷に詳しい人に教えてもらったらいいんじゃないかな。」その一言がきっかけで、専門家を探すことにしました。Yさんが、週末、家で「風呂敷研究家つつみ純子さん」を見つけました。連絡してみると、すぐに学校に来ていただけることになり、風呂敷のことを教えてもらうことができたのです。「風呂敷のよさをたくさんの人に広げるのが私の夢です。」と話してくれたつつみさん。私たちも、地域の人、とりわけ、地域在住の横浜国立大学の留学生の方々に風呂敷のよさを知ってもらおう活動をしたいと考え、さらに活動をパワーアップしていきます。

